

堀岡 敏喜 議員 公明党



問 共生社会の実現に向けて

答 包括的な相談支援体制を構築

○本年 4 月よりスタートした重層的支援体制整備事業について、以下を問う。

問 本事業の位置付けは。

答 (健康福祉部長) 複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的支援体制。

問 本事業の相談体制は。

答 ふくし総合相談窓口と既存の各窓口が連携。

問 複雑化・複合化した課題を抱えるケースへの対応は。

答 サービスの情報提供と、伴走型支援を念頭に協議を行う。

問 庁内横断的なケース会議や情報共有の体制は。

答 関係部署で構成する「弥富市支援会議」を設置。

問 支援体制、支援プラン作成、支援会議などの運用状況は。

答 3 人の※ CSW を配置し支援プランを作成。緊急時は随時会議を開催。

問 現時点で把握している実績は。

答 令和 8 年 4 月時点で延べ相談 86 件中プラン作成は 1 件。

問 本事業の実効性をどのような指標で検証していくのか。

答 プラン終結件数や割合を重要指標と考える。

※コミュニティソーシャルワーカー：地域の困りごとを支援につなぐ福祉専門職

問 共生社会を支える地域づくりを

答 地域資源との連携を推進

問 アウトリーチと継続的支援について問う。

答 (健康福祉部長) CSW が福祉関連の会議体や地域資源へ積極的に関与する。また、ささえあいセンターとの連携を密にし、支援につながっていないケースを把握。

問 本市に合った地域づくり、居場所づくり、社会参加支援をどのように発展させていくか。

答 社会資源を幅広く把握し、多様な居場所の情報提供や利用調整を行う。また、地域課題を把握し、資源開発に努める。

問 地域資源として NPO 法人ヤトミーティング、やとみっけベースへの期待は。

答 他の自治体にはない本市特有の地域資源と認識している。欠かすことのできない重要な存在であり、連携を密にする。

問 市民への周知や地域との連携をどう進めていくか。

答 チラシの活用と、まだつながりのない地域資源との関係性構築に努める。



▲ NPO 法人
ヤトミーティング
のホームページ